

国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	大野 健一	学校名	○川口市立飯仲小学校（本務校） 川口市立仲町小学校（兼務校）
教科（科目）・領域	外国語・総合	対象学年（人数）	5年 1組（28名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和5年 11月1日（水）1校時		

【実施概要】

1. 単元名(活動名) : Unit6 I want to go to China. (本来ItalyのところをChinaに変えて)					
2. 実践する教科・領域：  外国語活動・外国語 総合的な活動  ※教科学習での取り組みか、あるいは総合的な学習、特別活動、道徳での取り組みかを明示してください。	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： ①中国の言葉や文化を知り、そこでできることを簡単な英語で紹介することができる。（外国語） ②世界の国々や中国のことについて、言葉や文化の多様性に気づき、発表することができる。（総合）					
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の国々や、主に中国について、I want to go to~, You can~などの表現を用いた話から、そこでできることや、その理由を伝え合うことができる。</li> <li>世界の国々や中国について、学習した表現を用いて、その国でできることを伝える技能を身につけている。</li> </ul>			
	②思考力、判断力、表現力等	世界の国々や中国について、その魅力を紹介するために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、そこでできることなどを発表している。 （具体的な使用表現例） In <u>Peru</u> (国名), you can visit~. I want to go to~. You can visit~. You can eat~. You can buy~.			
	③主体的に学習に取り組む態度	世界の国々や中国のことについて、行きたい国や街の名前を挙げ、その理由をたずね合おうとしている。			

<p>6. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p><b>【単元設定の理由あるいは単元の意義】</b></p> <p>現在、本市で使用している小学校外国語の教科書「Here We Go!」は、英語を母語として話す国を中心に扱っている内容・構成にはなっていない。世界の様々な国・地域のことが紹介されており、多様な言語や文化、価値観が学べるように工夫されている。また、12か国の世界の小学生が英語で自己表現するミニ動画等もついており、異文化理解についての知識を得ることが可能である。外国語（英語）の学習を通じて、世界のことについて学べるのは優れている点ではあるのだが、子供たちが目にする各国の情報は、あくまで断片的で、画一的な印象は否めない。</p> <p>本校は、外国にルーツを持つ児童が多数在籍していることが大きな特徴である。その大半は中国出身であるが、近年はネパール、ベトナム、モンゴルなど、他のアジア地域からの出身者も増加する傾向となっている。今年度、外国にルーツを持つ児童の数は、約500人の全校児童の内、約70～80人程度となっており、この中で、日本語指導を受けている児童は約30人である。このような環境の学校に勤務していると、外国語という教科で扱う言語は何語が適切なのか、という問いが生じてくる。今回授業を実践する5年1組は、28人中3人が中国にルーツを持っている。他の5年生の2クラスは、各クラスに5～8人程度中国にルーツを持つ児童が在籍しているので、数としてはそれほど多くはない。</p> <p>児童にとって、隣に座るクラスメイトの話す言葉や文化に興味を持つ、というのはごく自然な流れであり、異文化理解の第一歩であると考え。しかしながら、実際に子供たちが中国のことについて学べる機会はほとんどなく、メディアやSNSの影響や両国間の関係悪化によって、ネガティブなイメージを抱いている日本人児童も少なからずいる。逆に、中国にルーツを持つ児童は、自分たちの言語や文化に誇りを持っており、もっと知ってほしい、と感じている児童も多い。多様な国のことを扱っている本単元で、1つの国に焦点を当てることについて賛否はあるかもしれないが、本校（本学級）の実態を鑑みた時、中国という国について扱い、理解を深めることは、多文化共生、異文化理解という学習領域から見ても妥当なことである、という結論に至った。そこで、単元名、「I want to go to Italy.」のItalyをChinaに代え、「I want to go to China.」という仮単元名で授業を展開していく。そして、中国の文化や言語、中国でできることなどを学び、最終的に中国のことを紹介するポスターを作って紹介ができるようなゴール設定にする。（教科は外国語であることから、中国の言語に重きを置く）</p> <p>この単元を学び終わった時、学級や学年に多く在籍している中国人児童と日本人児童の更なる相互理解が深まり、共生とは何かを考える一助になれば幸いである。</p> <p><b>【児童/生徒観】</b></p> <p>本校は、JR川口駅から徒歩圏内に位置し、中国にルーツを持つ人たちが多く住んでいる地域である。現在、川口市には約4万人の外国人住民が居住しており、その数は人口の約6%を占め、全国の自治体の中では新宿区に次いで2位となっている。（国籍別上位5か国 中国、ベトナム、韓国、フィリピン、トルコ）学校の隣接する川口駅、西川口駅周辺地域には6～7千人の中国人が住んでいると言われており、ゆえに本校は圧倒的に中国にルーツを持つ児童が多い状況である。この9月にも計6人の転入生が来たが、全員が中国人である。しかし、子供たちは明るく、日々の学習に対して前向きに取り組んでいる。国籍、言語、文化など、「違って当たり前」が土台にある学校と言える。</p>
--	---

**【教材観】**

## ① その他の外国語を扱うことについて

現行の学習指導要領には、「英語を使用している人々の日常生活等を取り上げるとともに、英語以外の言語を使う人々の日常生活も取り上げることにも配慮することが求められている。」と示され、英語以外の外国語を扱うことの可能性について言及している。しかしながら、(3)教材選定の観点(イ)では、「我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うことに役立つこと。」となっている。注目したいのは、英語の背景にある文化に対する関心を高め、という部分である。様々な言語を使う地域や人々も配慮するが、あくまで中心に扱うのは、「英語」という意図がここから読み取れる。また、第3節第3章では、「外国語科においては、英語を履修させることを原則とすること。」と、はっきり示され、その理由としては、「中学校の外国語科は英語を履修することが原則とされていることなどを踏まえ、英語を取り扱うことを原則とする」とされている。結果、日本全国の義務教育学校では、ほぼ100%外国語の授業では英語を扱っている現状が生まれている。

しかし、今日の日本で、外国にルーツを持つ定住外国人は約300万人に上り、その数は年々増加している。このことを鑑みれば、地域によっては、柔軟にその他の外国語を選択し、主となる英語に加えて扱っていく方法もあるのではないだろうか。日本にいる定住外国人の中で、日常的に英語を使っている人の数はごくわずかである。非英語圏の中国とベトナムが全体の定住外国人の4割を占め、続く韓国、フィリピン、ブラジル、ネパールを足せば、非英語圏の人々は全体の8割を超える。当たり前のように日々英語を教えている私たち教員も、なぜ英語なのか、という目的を改めて考え直すことが大切ではないかと考える。

本単元では、外国語の教科書をベースに進めていくため、児童の学ぶ言語は英語が中心となるが、基本的な中国語の表現も適宜取り扱っていく。その際、児童の過度な負担とならないよう、使う表現については十分吟味して扱う予定である。(中国語の表現例：你好、再見、谢谢など)

## ② 様々な国の扱いについて

本単元では、中国について焦点を当てていくが、世界の様々な国及びその国々でできることが紹介されている。それらの国々について児童の学ぶ機会を奪わないよう、留意しながら学習を進めていく。

**【指導観】**

単元の構成は、外国語の中に総合を入れ込んだ形をとっている。全8時間の内、前半4時間で外国語の教科書の内容を中心に学習を進めていく。同時に、中国、エジプト、インド、アメリカ、カナダ、ペルー、ブラジルなど様々な国について学んでいく。最終的には、中国について班で調べた内容などをまとめ、簡単な英語で紹介することを目標にしている。本授業では、中国出身のゲストティーチャーを招き、児童自らがインタビュー活動を通して、中国の言語や文化について深く学べるよう促したい。インタビューで使用する言語は、中国語と日本語で行う予定である。本授業では、外国語という教科の特性上、中国の言語の多様性や豊かさについて学べる機会としたい。

<p>本時は、単元の前半に学んだ4時間分の外国語の授業を土台に構成されている。しかしながら、外国語そのものの扱いは前時の復習程度となっており、総合的な学習の時間という位置づけの比重が高くなっている。計画にあたっては、下記の学習指導要領総合的な学習の時間、2の内容の取扱いについての配慮事項(8)を参考に、児童自らが外国の文化に主体的にかかわるインタビューを通して、中国の生活や文化について学びを深められるようにしている。本時の学習を経て、児童はより深く中国のことを学ぶこととなり、それを単元後半の発表へとつなげていきたい。</p> <p>配慮事項(8)：『国際理解に関する学習を行う際には、探究的な学習に取り組むことを通して、諸外国の生活や文化などを体験したり調査したりするなどの学習活動が行われるようにすること。』</p>			
7. 単元計画 (全8時間 外国語 8時間 総合の3時間を含む )			
時	ねらい	学習活動	◆資料 ■表現
1 外①	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の国々の言い方を知る</li> <li>中国の都市の名前を知る</li> <li>中国について抱くイメージ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アニメーション映像を観て単元の概要をつかむ(聞)</li> <li>様々な国名の導入 + (中国の主要な都市名)</li> <li>中国についてのアンケート(中国ルーツの児童以外)</li> </ul>	重点領域：聞く ◆世界地図 ◆中国の地図
2 外②	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の国でできること、中国でできることを伝える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国で行くことができる場所について(Let's watch)</li> <li>色々な国の観光案内を聞く(Let's listen)</li> <li>国旗カードのカルタ取り</li> </ul>	重点領域：聞く ◆中国で行くことができる場所 (パワーポイントで動画や写真の提示)
3 外③	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の国でできること、中国でできることを伝える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な国でできることを伝える</li> <li>中国でできることを伝える</li> </ul>	重点領域：話す(やりとり) ■ In Peru, you can visit Machu Picchu 学習する動詞 visit / see / eat / drink / buy
4 外④	<ul style="list-style-type: none"> <li>行きたい国とその理由をたずねたり答えたりする言い方を知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALTが中国の街に行きたい理由を説明する。(Let's watch)</li> <li>Let's listen</li> </ul>	重点領域：話す(やりとり) ◆中国の地図 ■ Where do you want to go? I want to go to China. Why? I want to see~.

時	ねらい	学習活動	◆資料 ■表現
5 外⑤ + 総①  本時	・インタビューを通して、中国の生活、言語、文化について学ぶ	・動詞の復習：クイズ形式（外国語） ・班ごとに中国の生活、言語、文化について国際交流員にインタビュー活動 ※ゲストティーチャーは班ごとに違う中国の都市を紹介する。 ・タブレットを活用し、中国の都市や文化に関する調べ学習	ゲストティーチャー（川口市役所国際交流員や保護者）を招き、インタビューする。  インタビューで使用する言語は日本語と中国語 ■你好、谢谢、再见 ◆インタビューシート
6 外⑥	・行きたい中国の街とその理由をたずねたり答えたりする言い方を知る。	・前時のインタビューの結果から中国の地図を使い行きたい街とその理由をたずね合う。	■Where do you want to go? I want to go to Beijing. Why? I want to see a great wall.
7 外⑦ + 総②	・行きたい中国の都市の魅力を考えてポスターを作る。 ・発表の準備をする。	各班でポスター作製を行う。  国名： <u>China</u> 都市名： <u>Beijing</u> 名所、名物やできることを紹介する。 You can visit ~. You can see ~. You can eat ~.	
8 外⑧ + 総③	前時に作ったポスターを基に各班で発表する	中国の1日親善大使になる。	発表の使用言語は英語、日本語、中国語  ■你好 In Beijing, China You can see 万里の長城、You can visit 天安門、You can eat ~. 谢谢

8. 本時の展開 (概略)			
本時のねらい：インタビューを通して、中国の生活、文化、言葉などについて知ろう。			
※過程の網掛け部分は適宜変更下さい。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材) ■表現
<b>導入</b> (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶</li> <li>・前時の復習 (外国語)</li> <li>○クイズ形式で動詞の復習を行う。(visit / see / eat / drink / buy)</li> <li>○3～4人のゲストティーチャーが簡単な挨拶や中国に関するクイズをする。</li> <li>・中国語についてのクイズ (例)                こんにちは、は何と言う？你好                ありがとうは？谢谢                さようならは？再見</li> <li>○中国の生活や文化に関するクイズ。このクイズは主に日本語で行う。(例：中国のお正月は日本と同じか？中国の人口は日本の何倍？)</li> <li>・児童の興味関心を高め、同じ中国でも地域によって文化や言語の違いがあり、多様性があることに気付かせる。</li> <li>・中国ルーツの児童複数に生活や言葉に関する質問をする。(例：中国は「いただきます」のように食べる前に言う言葉があるか？中国の学校と日本の学校はどう違うか？) 多くの児童にとって一番身近な存在である級友が家で使っている中国語はどのようなものかを知る。</li> </ul> <p>本時の目標の確認</p>	<p>中国語にも多様性があることに焦点を当てる</p> <p>※国際交流員の出身地が異なることから、地域によっても説明する。</p> <p>児童の出身地については事前に確認しておく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ You can visit Ururu. You can see koalas. What country is this? (It's Australia.)</li> <li>■ (中国語の導入)                你好 / 谢谢 / 再見</li> </ul>
<b>展開</b> (30分)	<p>インタビューを通して、中国の生活、文化、言葉などについて知ろう。</p> <p>班活動 (6班)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャーへのインタビュー活動</li> </ul> <p>質問は、言語、教育、地域などから行う。児童が考えるオリジナル質問も可とする。(日本語と中国語で行う)</p>	<p>※インタビュー時間は各班5分に設定し、ローテーションする。</p> <p>※時間はゲストティーチャーの数によって変更の可能性あり。</p>	<p>ゲストティーチャーを教室の複数個所に配置し、児童は班ごとにインタビューを行い、インタビューシートに記入する。</p>

<p>まとめ (5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ローテーションで国際交流員にインタビューをする。インタビューは1班ずつ順番に行う。</li> <li>・インタビューをしていない班は、タブレットを使って調べ学習を行う。 (調べる項目は、インタビューに関連する言語、教育、地域、衣食住など)</li> </ul> <p>学習の振り返りとまとめ 今日の学習で分かったこと、中国のことで初めて知ったことなどをワークシートに書き、それをクラス全体で共有する。 (予想される児童の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで知らなかった中国の街のことが新しく知れて良かった。</li> <li>・中国の言葉にも日本の方言のようなものがある、地域で全然違うことが分かった。</li> <li>・中国のことはあまり知らなかったので、中国出身の友達にもっと聞いてみたいと思った。</li> <li>・英語も中国語も話せると面白いな、と思った。</li> </ul>	<p>※ゲストティーチャーの参加人数によっては、タブレットを使用し、調べ学習は行わず、すべてインタビュー活動にする。</p>	<p>■インタビューで使う予定の中国語 你好 / 谢谢 / 再見</p> <p>インタビューシートに記入 → 発表</p>
<p>9. 評価規準に基づく本時の評価 (評価方法)</p> <p>【態度】中国への理解を深めるために、ゲストティーチャーに積極的に聞き取りをしようとしている。 (行動観察・ワークシート)</p> <p>【知・技】インタビューや調べ学習を通して、中国の生活、文化、言語などについて理解している。 (行動観察・ワークシート)</p> <p>※外国語の評価については、外国語の扱いが前時の復習程度にとどまることから、記録に残す評価は行わない。</p>			
<p>10. 学習方法および外部との連携</p> <p>川口市役所協働推進課多文化共生係に国際交流員(中国人)が2名在籍している。本授業では、彼らをゲストティーチャーとして招き、児童が実際にインタビューできるようにする。また、学校全体で中国人の保護者も多くいるため、ボランティアとして参加ができる人を募る予定である。(残念ながら、保護者の参加はなかった)</p> <p>本実践は、学習者とゲストティーチャーとの直接の対話から、学習者自らが、ねらいに気付き、変容するプロセスを重視している。よって、事前の打ち合わせでは、学習者とのかかわり方や、言葉の使い方、特別な支援を要する学習者への注意など、細かく行った。</p>			

## 11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

本授業は、外国語の授業と特別活動を融合させた取り組みである。外国語には、外国につながる様々な題材が豊富に盛り込まれていることから、国際理解教育として実践することもできる。本実践は、市や県の国際理解教育実践事例として紹介される予定である。

## 【自己評価】

12. 苦労した点	<p>※学習活動が展開する中での苦労や、そこで見えてきた問題点を記入して下さい。</p> <p>本実践では、主な題材として中国を扱った。本授業に至るまで、教科書の内容を進めながら、中国のことについて段階的に導入をしていった。しかしながら、授業時間内でこれをやっていくには、タイムマネジメントと何をどこで、いつ導入するのか、綿密な計画が必要であった。</p>
13. 改善点	<p>本実践は、ゲストティーチャーの存在が授業の重要なポイントになってくる。よって、事前にゲストティーチャーの確保を確実にしなければならない。ゲストティーチャーの数によっては、グループ編成や、インタビュー時間を調整する必要がある。理想的には、1班に1人のゲストティーチャーがいる状態でインタビュー活動ができることである。(7人確保できることが理想)</p>
14. 成果が出た点	<p>①実際に中国の方へインタビューをすることで、学習者の中国への理解が深まったこと。</p> <p>②相手の言葉(言語)を理解することは、他者理解への第一歩につながる、ということが理解できたこと。</p>
15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<p>実践前に行ったアンケート調査では、中国に対してネガティブな印象を抱いている学習者が多いことが分かった。中国語も学びたい、と希望する児童はクラスに1名しかいなかった。しかしながら、本実践後は、中国語を知りたい、や中国に行ってみたい、と答える児童が増えた。</p>
16. 授業者による自由記述	<p>本授業を行ったことで、児童の中国に対する理解が深まったと感じられる。本校は外国籍児童、特に、中国籍児童が多いことが特徴の1つである。児童たちにとって、中国は一番身近な外国であるはずなのだが、授業前のアンケート調査では、中国に対して良くないイメージを抱いている児童が非常に多いことが分かった。これは、メディアやSNSなどによる影響が大きいのではないかと個人的には推測している。しかし、実際に中国の言葉を覚えたり、中国人の国際交流員にインタビューをしたりする経験を通して、児童の中で中国に対するイメージが徐々に変化している様子を見ることができた。インターネットや資料を使った調べ学習なども有益な学習であるが、やはり、実際にその国の人と言葉を交わすという経験は何物にも代えがたい。本授業の後、多くの児童の中で、中国は社会の地図帳に出てくるただの1つの国ではなくなったはずである。なぜなら、そこに暮らす人の顔を思い浮かべ、そこで暮らす人の言葉を思い出すことができるからである。このことから、私自身、国際理解教育の究極的な目的は、世界平和なのだ、という結論に至ったことを添えておきたいと思う。</p>



参考資料：

※単元を構想、実施する上での教師のための参考資料、学習者のための参考資料、ウェブサイト、データリソースなどを紹介してください。

アンケート 日本人用

1. 中国やその他の国の友達と一緒に生活をしていて何か違いを感じることはありますか。
2. 話をしていてうまく伝えられなかったことや、相手の言っていることがよく分からなかったことはありますか。
3. 外国に行くとしたら、どの国に行きたいですか。
4. あなたにとって中国はどんなイメージの国ですか。
5. あなたは中国語の勉強をしてみたいですか。



## インタビューシート

班

班のメンバー (

)

1. 〈あいさつ〉中国語で言ってみよう
2. 中国の学校について
  - ・日本の学校とちがうところは何ですか？（給食、そうじ、休み時間、持ち物、夏休みなど）
  - ・中国の学校ではどんな勉強をしますか？（科目、授業時間、宿題、1日何時間？など）
3. 中国の言葉について
  - ・日本語に似ている語はありますか？ ・場所によってちがいはありますか？

## 4. インタビューをしている方の出身の街について

○街の名前

○どこにあるのか

○有名なものは何か

## 5. 今日のまとめ（新しく知ったこと、気づいたことなど、自由に書いてください。）

〈最後のあいさつを中国語でしましょう。〉

ありがとうございました。さようなら。

中国のことを自由に調べてみよう。

( )

※食べ物、動物、スポーツ、民族、言葉、音楽、武術、中国の遊びなど